

平成29年度 佐賀県立小城高等学校 学校評価結果

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
教育方針 ○本校の校訓である「創意Originality」「挑戦Challenge」「誠実Integrity」を実践する。 ○「文武一途」を奨励し、総合力としての「生きる力」を育成する。 学校教育目標 ○明るく活気に満ちた教育活動の推進、知・徳・体の調和のとれた健全な人材の育成、教職員と生徒の相互の敬愛と信頼関係の構築を教育目標とする。	①学習指導や生徒指導のあり方を創意工夫し、生徒のキャリア意識の高揚と学力の向上を図り、個に応じた進路指導を実現する。 ②「文武一途」を実現し、部活動や社会貢献活動に積極的に挑戦し、マナーを身に付けルールを遵守する規範意識を養い、責任をもって行動できる生徒を育成する。 ③高深で誠実な指導により、知・徳・体のバランスがとれた発達を促し、探究心を培い、深く学び感性豊かな人間性豊かなオンライン活動を進捗させる。 ④教職員と生徒の相互の敬愛と信頼を深め、地域社会と協働・共創し、特色ある学校、信頼される学校づくりに邁進する。

達成度	A: ほぼ達成できた
	B: 概ね達成できた
	C: やや不十分である
	D: 不十分である

3 目標・評価

① 授業力の向上により、生徒の進路意識を高揚させ、主体的な学習習慣の形成と学力の向上を図り、個に応じた進路指導を実現する。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策	
学校運営	○職員の資質向上	<ul style="list-style-type: none"> 各教科で授業研究会(公開授業・合評会)を実施し、授業の質を向上させる。 定期考査や模擬試験の結果を分析し、生徒の学力の現状把握を行い、進路指導「オンリーワン活動」の改善を図る。 小論文指導研究会を実施する。 教育改善について関心を抱く。 	<ul style="list-style-type: none"> 年度当初に年間の授業研究計画を作成し、公開授業・合評会を100%実施する。 試験結果の分析を通して、生徒の現状を踏まえた授業内容や学習活動の指示を行う。 AL(主体的・対話的で深い学び)の視点に立った授業改善に取り組む。 高大連携指導及び新学習指導要領について概念を把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> 担当者、実施日等を全職員に周知徹底し、授業参観を行う。また、合評会の実施を促す。 課題研究の指導方法に関する情報や知識の提供。 受験指導に携わる職員全員の小論文指導研究会への参加を通じ、実際の受験問題の解法、答案作成上の留意点を理解する。 AL(主体的・対話的で深い学び)の視点に立った授業改善に取り組む。 大学入試改革に沿った進路指導を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 「オンリーワン活動」の改善について、2年生の自由課題研究の指導をより綿密に行い、レポート審査の観点、入賞者数の見直しを行い、講演会内容を今後の入試に向けたものにする事ができた。 小論文指導については例年通りの実施ではあったが、小論文への関心度がより高くなるよう意識づけを行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 本年度のオンリーワン活動は現1年生に実施した取り組みをさらに改善させ、主体的で、探究的なものになるよう年間計画に従って実施していく。 小論文指導に関しては、講演会の講師様にごらかが求めるものについて講話をして頂くよう働きかけたい。小論文に対する生徒の意識をHRや授業を通して高めたい。 	
			<ul style="list-style-type: none"> 1学年の目標を達成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の確立ができた。英語の学年末評定平均が3.0未満の生徒が10名以下になる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活の記録を記入させ、生活のリズムの確立を図り、基礎学力の向上へとつなげる。 授業を重視し、課題提出を徹底し、基礎学力の定着を図る。さらに、模擬テストなどテスト後の追指導を実施し、学力の定着を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生活のリズムの確立ができていないと答える生徒は9割を超えている。学習の記録や面談の成果である。 国英数の学年末評定平均が3.0未満の生徒が27名であった。英語、数学で習熟度別授業の実施、土曜講座で下位層指導等工夫したが、日々課題の提出が遅れるなど日頃の取り組みの甘さが結果として表れた。 中位から上位層に対しては順調に成績を伸ばすことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 本年度は生徒会役員や部活動など学校の中枢となって活躍していく学年である。しっかりとその意識を持たせ、主体的に活動していくよう働きかけたい。 模試において全体的に上位層を示した1年であった。しかしながら下位層が厚いのも現状であり、面談や学習会など粘り強く指導を行っていく必要がある。 配慮を要する生徒に対しては、外部支援機関等の助言を得ながらより一層きめ細やかな指導を行っていく。
			<ul style="list-style-type: none"> 2学年の目標を達成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の進路目標を明確に言える生徒を9割以上にさせる。 「オンリーワン発表会」のアンケートで、「できた」、「ある程度できた」を合わせて9割以上にさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の進路目標を明確に言える生徒を9割以上にさせる。 「オンリーワン発表会」のアンケートで、「できた」、「ある程度できた」を合わせて9割以上にさせる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に遅刻・欠席は少なく、授業の充実の成果として学力の定着があり、85%以上の生徒が国立大学を希望するなどほとんどの生徒が進路目標を明確にしている。 オンリーワン発表後のアンケートでは、「できた」、「ある程度できた」を合わせて92%以上であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は学年全体、クラス全体への指導が中心であったが、来年度は個に対する指導をより密にし、一人一人の進路目標を達成させることができるようにする。 来年度は本校創立120周年であり、それに対する意識を高め、先輩たちの実績に恥じないような成果を出していきたい。
<ul style="list-style-type: none"> 3学年の目標を達成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 各自が目標とする進路の実現に向けた進路指導と教科指導を行う。 国立大学合格者数を75名以上にさせる。 社会人として身に付けるべきコミュニケーション能力と行動力、判断力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 礼法指導、掃除の徹底など基本的な生活習慣の定着を図る。 授業重視、課題提出の徹底など進路に応じた学力の定着を図る。 自由課題研究レポート作成を中心にオンリーワン事業の活用を図る。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人ひとりの状況や進路目標等の情報を十分に把握し、その生徒に応じたきめ細かな指導を行うことができた。小論文や面接が課される生徒に対しては、個別指導を厚手厚脚行った。 授業を第一にし、教師側の教科指導の充実を図ったことにより、受験に必要な学力を早期につけさせるのに貢献した。 学校行事、部活動等あらゆる活動に積極的に取り組ませることにより、コミュニケーション能力と行動力、判断力を身に付けることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 理系文転者が極力出ないように、1年次の文理分けを丁寧に行う。 朝特課の遅刻欠席をさせない雰囲気を作り出す。 生徒の意識付けのためのしかけ(学習会など)を行う。 最終登校日以降(私立大入試以降)の特課を休ませない雰囲気を作る。 AO、推薦試験への対応は学校全体で取り組むことを重要である。自己推薦文等の指導も担任だけでは限界がある。 			
教育活動	●学力向上	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習の習慣を定着させる。 生徒全員が授業に意欲的にのぞくことができる。 生徒が個々に掲げる進路目標を達成することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 予習・復習、課題提出に関する指導を徹底する。 現役の国立大学合格者75名以上、難関大学合格者3名以上にさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学期毎に1回以上の進路検討会、教科担当者連絡会を実施し、ホームルーム担任、教科担任が生徒一人一人の進路実現に必要な指導内容を共有する。 学習時間調査を定期的に行い、主体的学習習慣の確立を図る。 各種講演会を実施し、生徒の学習意欲を高める。 具体的な短期目標を設定させ、進路目標を達成させる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 進路検討会および教科担当者連絡会を通して生徒の現状や教科指導の指針等を共有できた。1、2年生の学力向上や3年生の適切な進路指導につなげることができた。 学習時間調査で生徒の学習状況の把握は一定程度はできたが、調査後の指導に生かすことができていない。 各講演会を通して生徒の学習意欲の向上は図ることができた。ただし、その意欲・意欲を持続させる事後指導は十分とはいえない。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年、学校全体が共通の意識を持って生徒一人ひとりの学習、進路指導にあたるように、各種検討会、連絡会、進路指導部が中心となって進路指導の向上に今後も取り組んでいく。 新テストを見据え、徐々に変化しつつある大学受験に関する情報の収集と必要な指導の学年と共有を図る。 AO、推薦試験への早期対応をとり、学校全体で取り組む体制を構築する。ポートフォリオの利用方法についても検討を行う。 	
			<ul style="list-style-type: none"> ●教育の質の向上に向けたICT活用教育の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 研修や授業研究を通してICT機器を活用する技術・能力を向上させる。 生徒の授業評価の「目」以上の率が前年度より向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内ICT活用研修へ全職員が参加する。 教員全員が電子黒板、学習用PCなどのICT機器を利用して授業ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業研究会等を利用して教科内、教科外のICT機器利用状況を学ぶ。 授業以外でのICT機器利用を促進し、授業に活用できる機会を増やす。 新しい学習用ソフトを効率的に利用し、生徒の学習用PCの利用時間を増やす。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 今年度の授業研究会から次期学習指導要領で求められる授業形態を意識した授業を実施して頂いた。 電子黒板の活用は定着し、授業効率を上げていく。 学習用PCについては、授業以外でも、Classiなどに電子配信等によって活用し、学習用PCを活用する場面が増えていく。しかし、学力向上に向けた活用についてはさらなる工夫が必要である。 ICTを活用した教育についての満足度は、3年生ではやや下がった。
<ul style="list-style-type: none"> ○読書の奨励 	<ul style="list-style-type: none"> 「朝の読書」を生徒の読書習慣の定着へつなげる。 図書館の本の貸し出し冊数を増加させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝の10分間読書を推進し、年間10冊以上を目標に言語活動の充実を図る。 図書館の貸し出し冊数一人あたり6.0冊以上にさせる。(昨年度5冊) 	<ul style="list-style-type: none"> 「生徒が利用しやすい図書館作り」を推進し、展示や「図書館だより」等広報を充実させ利用促進を図る。 「朝の10分間読書」のあり方について、各分掌・教科等と連携して内容の充実・改善を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 図書館の利用者数は大幅に増えたが、残念ながら、図書館の貸出冊数一人あたり6.0冊の目標に到達できず、広報活動も不十分だったと反省している。 「新聞コンクール」で学校賞及び入賞者を出すことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 図書館から各クラスへの本の情報提供を密にして、本を読む必要性をしっかりと生徒に認識させるような方策をとっていきたく考える。 小論文対策としての新聞の活用方法の研究を進める。 		

②部活動や地域への社会貢献活動に積極的に挑戦し、マナーを身に付け、ルールを遵守する態度を養い、責任ある行動がとれる習慣をつける。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策	
教育活動	○部活動の振興	<ul style="list-style-type: none"> 部活動の加入率が90%以上とし、県大会優勝をはじめ、ベスト4以上3部を目指す。 「文武一途」の則った部活動の運営を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動の加入率が90%以上とし、県大会優勝をはじめ、ベスト4以上3部を目指す。 日々の活動において、勉学との両立の重要性を認識し、質の高い練習を実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動紹介や掲示物等を有効に活用し、新入生に対して各部の魅力や魅力を伝え、加入を促す。また、2、3年生に対して、部活動未加入者に対して、部活動加入を促す。 部活動と学習が両立できるように19時完全下校を厳守させる。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 部活動加入率は77%(昨年度83%)であった。また、柔道部女子高校総体県予選団体優勝、ソフトテニス部男子が九州総体団体3位、個人では柔道部男子が個人で、全国総体で第5位、柔道部女子が個人で九州ジュニア大会優勝の成績を収めた。放送部が全国大会に出場した。 19:00完全下校は概ね実行できた。 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動紹介や掲示物等を有効に活用し、新入生に対して各部の魅力や魅力を伝え、加入を促すとともに、効果的・効率的な練習を追究する姿勢を養っていく。 部活動と学習の両立ができるよう、週1回の休日を設定することを部活動規約に盛り込むことや月曜日を学習優先日とし、補習等が実施しやすい環境づくりを行う。 	
			<ul style="list-style-type: none"> ○安全防災教育 	<ul style="list-style-type: none"> 安全で快適な学校環境を維持整備する。 災害(火災・地震等)時にどのように対処し避難すればよいか理解し実践できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎月安全点検を行い、危険箇所があればすぐに対応する。 防災(火災・地震等)時にどのように対処し避難すればよいか理解し実践できる。 教急法についての職員研修を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 毎月安全点検を実施し、早期に危険箇所を見つけることができたが、予算の都合もありすぐに改善できないところもあった。 防災避難訓練は、雨天時計画で実施したが、避難方法の周知ができた。 AEDを使った救急法については、生徒対象の研修会に参加できた職員もいた。 	<ul style="list-style-type: none"> 重大事故につながるような危険箇所については、早期発見・早期改善できるようにする。 AEDの研修会は、生徒の研修会を実施している体育科と協力して運動部活動顧問を中心に参加できるようにする。
			<ul style="list-style-type: none"> ○地域・社会貢献 	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動に年間3回以上参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ボランティアに参加することによって、奉仕の心を養い、人のために働くことの意義を感じさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域のボランティア活動に、生徒会役員が中心になって、個人、部活動単位で参加できるよう、日程等を早めに生徒会より発信する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 2年2回の地域の清掃活動は、生徒会や部活動を中心に多くの生徒が自主的に参加した。また、各学期に実施している学年単位による学校周辺の清掃活動など、環境美化活動やボランティア活動の実践・啓発という点では一定の成果が上がっている。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策	
教育活動	○キャリア教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 自由課題研究の成果を生かした進路の実現 	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育生徒アンケートで、自由課題研究が「役に立った」、「ある程度役に立った」を合わせて、9割以上にさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> オンリーワン事業として主に、1年生では職業・学部・学科研究を、2年生では自由課題研究を、3年生では進路の実現につなげる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育に関するアンケート結果で、左記の具体的目標の項目が91.4%となり、目標は達成された。 1年生には、従来の職業別講演会をキャリア教育特別講演会とし、県内外で関連する企業より講師を招き、充実した講演会となった。2年生の自由課題研究については上記「職員の資質向上」の項目に述べたとおりである。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度実施したキャリア教育特別講演会を来年度も継続して実施するが、生徒には事前準備をより充実させて臨ませる。 来年度の年間計画に従い、オンリーワン発表会に生徒がより主体的に取り組むよう、指導をする。そのための職員研修を実施し、指導書を準備する。 	
			<ul style="list-style-type: none"> ●心の教育 	<ul style="list-style-type: none"> すべての生徒が規範意識を持って学校生活を営むことができる。 健全な心身の育成に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 感謝の心を持ち、品のある小域高生を育成し、充実した高校生活を過ごさせる。 面談週間や日々の面談の実施、本人・保護者のアンケートを実施することで早期に悩みや困りに気づくことができるようにする。 人権・同和教育講演会を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 教員と生徒が連携しての毎朝の立ち寄りや全校集会等において、心地よい挨拶、身だしなみ、感謝・配慮の心、場に応じた行動をとることの呼びかけを行い、ある程度の定着を図ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 来年度は、全職員による登校指導を行い、相手が心地よく感じる挨拶になるよう、生徒への呼びかけを毎朝の校門指導、全校集会、朝のホームルーム活動などを通して常時行っていく。 モラルと規範意識については、全校及び学年集会やHRを通じて地道に生徒に訴えていく。
			<ul style="list-style-type: none"> ●いじめの問題への対応 	<ul style="list-style-type: none"> いじめはやらない、許さないという意識を身に付けることができる。 いじめの早期発見を行い、適切に対応できる。 情報モラルの確立を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> いじめアンケートの実施と相談しやすい体制の確立によって、より正確な実態の把握に努める。 全校集会、学年集会やLHRなどで、いじめは許されない行為であることを繰り返し訴え、生徒に自覚を促す。 生徒の状況に応じて、個人面談等を積極的に行う。 年度当初に情報モラル講演会を行う。常時、全校集会、学年集会やHRでSNSの危険性を伝える。 	B	<ul style="list-style-type: none"> いじめの定義の周知やSNSの使用についてのマナー向上について、講師を招いた講演会や全校集会、学年集会での呼びかけを行い、「いじめは許さない、許さなければならぬ」という雰囲気を作ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> いじめアンケートの実施はもともと、日頃より生徒の様子を観察し、いじめがおきないよう、また、いじめが起きた場合にも早期に対応する。 情報モラルの指導を徹底し、ネットの怖さを生徒に理解させなければならぬ。そのためには、全校集会や学年集会等で危険性を訴え続ける。
			<ul style="list-style-type: none"> ●健康・体づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 規則正しい生活習慣の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 保健講話や保健だより(年6回)を通じて、健康に関する知識や理解を深める。 保護者にも協力を仰ぎ、規則正しい生活習慣の確立に努める。 生徒の出席率が90%以上とし、不登校の生徒を10名以下にする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 保健講話、教育相談だより(年6回)、保健だより(年2回)を通じて、生徒の心身の健康管理について指導することができた。 朝食は、82.8%の毎日食べていた(2年)。 生徒の出席率は97.6%であった。特に3年生の30日以上の欠席者が例年の大幅に増えた。1・2年生は減少した。 保健部会や職員会議で気になった生徒の情報共有を行い、教育相談支援会議等、チームで方向性を定め回復に向けてサポートできた。外部支援機関との連携が構築できたのは良かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 保健講話、保健だより、教育相談だよりをそれぞれ年に6回以上定期的に発行することで、規則正しい生活習慣の大切さを理解させる。また、気になる生徒については、今年度同様積極的に行い、チームワークを必要とする必要がある。教育相談部会には、スクールカウンセラーも出席できるような時間設定にアドバイスをしてもらう。 外部支援機関との連携をより一層充実させる。

④地域社会と連携協働し、開かれた明るい学校、信頼される学校をつくる。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	○開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> 地域に信頼される学校づくりを行う。 学校行事や教育活動の広報活動を行う。 体験入学及び学校説明会の充実を図る。 PTA総会(学校行事)への保護者の参加率を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本年度の教育目標・重点目標を知っている保護者の割合を70%以上にさせる。 PTA総会の内容の充実を図り、参加者数の増加を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校ホームページの更新を月に2回以上行う。 佐城地区普通科高校での体験入学の日程調整をする。 説明会に多くの職員に出向いてもらい、さまざまな角度から本校の魅力を直接中学生に紹介する。 PTA役員との協力により保護者への参加を促す。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 本年度の教育目標・重点目標を知っている保護者の割合は昨年度同程度の約42%であった。 学校ホームページの更新の頻度が昨年度より一層向上させることができた。外部からの評価も高かった。 メール配信サービスにより、学校行事への保護者の関心が高まった。 体験入学日程は佐城地区普通科高校間で調整し、例年の参加が得られた。また、2回目の体験入学を10月に実施し、参加者は約80名増加し、概ね好評であった。さらに、本校への入志願者が約50名増加した。 PTA総会への参加率(40%)は例年並みで大きな向上は見られなかったが、今年度は除算作業を実施し、PTA行事の保護者の参加者数が増えた(58.9%)。 	<ul style="list-style-type: none"> PTA総会及び地区保護者会への参加率を向上させ、本校の教育目標を周知させる。PTA総会の内容の充実を図る。 地区保護者会の期日を含めて実施方法を検討する。 報道機関及び地元自治体の協力を仰ぎ、本校の教育活動の広報活動を行う。 来年度も体験入学を2回実施し、中学生が参加しやすい時期に変更する。 学校ホームページの更新頻度を2倍以上にし、本校の教育活動をPRしていくことで、保護者の学校行事への参加増につなげる。 地域の中学校との連携を深める方法を検討し、本校への志願者を増やす。

4 本年度のまとめ・次年度の取組

保護者に対する教育活動アンケートによると、本校の教育活動の各分野について概ね好意的な評価をいただいている。また、生徒からの授業評価アンケートや生活アンケートからも、95%を超える生徒が授業や学校生活に満足しているという結果を得られている。次年度も教職員一丸となって以下のように留意しながら、生徒の指導に当たってきたい。

- ほとんどの生徒が大学をはじめとする上級学校への進学を希望しており、進路目標の達成の基礎となる学力の向上に関する取組の改善・充実が、本校にとって最も大きなテーマである。次年度は研究授業、授業評価アンケート、ICT活用などをさらに充実させて、生徒の進路目標実現に向けた諸方策をより良いものにする。特に学習用ソフト(スタディサプリ、クラスター等)の活用方法の研究は重要である。
- 生徒指導面では、今後も家庭や地域とも連携を図りながら規範意識の向上と基本的な生活習慣の確立について丁寧な指導を行っていきたい。教育相談体制の再構築を行い校内組織が確立することができた。外部支援機関との連携によって、配慮を要する生徒に対しての教育効果を発揮させることができる。来年度は不登校生徒を未然に防ぐための方策を学校危機管理の一環として取り組む必要がある。挨拶やルール・マナーの順守に関しては、これまでと同様に、集会、ホームルーム、部活動等を通して継続して根強く指導していく。
- 本校の代名詞である「オンリーワン活動」をさらに発展させるために、特に総合的な学習の時間を有効活用させて進路指導の充実を図るとともに、教員の指導力向上を図っていく。
- 「文武一途」を実現させるために、週1回の休養日を設け、19:00完全下校を徹底する。生徒のみならず職員も時間の有効活用を意識し、メリハリのきいた生活を送る。また、部活動の加入率が減少しているため、対策を講じる。
- 本校への入志願者増加したが、気を緩めることなく、創立120周年に向けて、よりよい学校づくりを目指して、職員の共通理解のもと、日々の継続的な取組を地域・保護者にアピールし、小域高校の誇りを発信する広報活動に力を入れる必要がある。

●は共通評価項目、○は独自評価項目